

世界旅打ち気分

●第73回・アイルランドの砂浜競馬

須田鷹雄



写真1) レース前にラチを作る人たち



写真2) このパレードリングも1日だけ設置される



写真3) ゴール前のシーン、奥は海

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

「この連載も長く続けてきたが、「ここを紹介していなかったか!」という場が残っていた。アイルランドのレイタウン競馬場である。砂浜競馬が行われる競馬場と言えば、「ん」とくる方もいらっしゃるだろう。

この競馬場、というか競馬場になる土地を最初に訪れたのは2019年の8月、グリーンチャンネルのロケであった。しかしここは年に1日しか開催されない競馬場、それも砂浜にラチを立ててコースを作るので、開催日以外はただの砂浜と、それを見下ろすただの丘である。景色としては、なにも言われなければここで競馬が行われるとは思えないものだ。

砂浜競馬は一度見ておきたい競馬だったので、このときは「また来よう」と思ったのだが、通常のレイタウン開催は9月最初の大潮の日に行われる。さすがに8月に行ったアイルランドに9月にまた行く気にはなれず、「来年以降でいいや」と思っていた。

そこへやってきたのが「コロナ禍である。」来年で「と思ったその年は2020年で緊急事態宣言も出た年。海外旅行などは全く無理にな

ってしまった。しかも悪いことに、20年から21年にかけて筆者は海外旅打ちの本を書いており、「年に1日のみの開催「砂浜競馬」というレイタウンは、ぜひとも収録したい内容だったのだ。」

そもそも、20年の開催は中止になっていた。21年の開催に行ければぎりぎり本には収録できるのだが、おそらく無理だろう……と思っていたのだが、ここで運が向いた。通常9月に行われているレイタウン開催だが、アイルランド国内の集会規制が解けるタイミングを待つ、11月に開催ということになったのである。

その年の秋は、アイルランド、イギリス(乗り継ぎ地)、そして日本の「コロナに関する規制やルールをネットでチェックする日々だった。そして、帰国後の隔離さえ受け入れれば、なんとか行けないこともない」という結論に達したのである(その隔離も結果的には自宅隔離となった。

日本で陰性証明をとり、空港でANAの職員さんにイギリスとアイルランドの渡航に必要な書類を見せ、延々審査されてやっと機上の人となったら……あとはあつけない

ものだった。乗り継ぎで一瞬間入国するイギリスはイミグレが自動ゲート、そこからダブリン行きの子エックインで陰性証明は確認されず、アイルランドの入国審査も通常通りだった。渡航者が少ないぶん、むしろそれ以前の乗り継ぎより時間がかからないほどであった。そのように紆余曲折を経て到着したレイタウンだが、結論から言うと、頑張っ行ってよかった。砂浜競馬自体も素晴らしいし、この年は「コロナで中止になったあとの復活開催ということで地元盛り上がりも大きかった。」

張り切っていたので早めに行き、ファンエリアから近い駐車場が分からずに、駅近くの競馬場からは少し距離のあるところに車を停めてしまったのだが、これも逆に良かった。砂浜にラチを立てている人たちの作業を見ながら向かうことができたし、早めに着いた馬を馴致のため曳いている人などを見た。他の競馬場では見られない光景に心躍る。

文章で伝わるか分からないが、レイタウン競馬場について整理しよう。砂浜競馬ではあるが草競馬のようなものではなく、れつきとしてよく覚えていないほど、レースそのものが楽しかった。

た公式開催である。出走馬は平地の下級条件がほとんどで、騎手もスター級は出てこない。

レースは直線というか砂浜をずっと走ってくるもので、距離の長いレースほどファンから遠い地点が発走地点となる。レースのうちほとんどの部分にはラチがなく、残り100mあたりからラチが作られている。出走頭数に比べてラチの幅が狭いようにも感じたが、さすがに横に入りきれなくなるようなことはないようだ。

観戦エリアのひとつは砂浜を見おろす丘にあり、ここは有料である。指定席などはなくエリアに入るチケットのみ。フードトラックなど飲食のサービスはこのエリアのみあり、パレードリングもこのエリアにある。

それとは別に、砂浜のいちばん丘に近い側にもファンが居られる場所がある。ここは無料だし、競馬を見に来たというよりは犬を散歩させている地元の人などもある。レースから距離的に近いということではこちらのほうが迫力があるのだが、前述の各種サービスは無料エリアにないし、ブックメーカーも有料エリアにしかない。

砂浜の無料エリアは以前、コースとの区分がほとんどなく、いまより近い間合いでレースを見ることができたらしい。しかしある年に放馬事故があり観客が怪我をする結果になったことから、その後はある程度の距離が取られ、レースの進行と客とが入り混じらないようになっている。

ターフビジョンなどの施設は無いので、レースを見るときは実況だけが頼りである。双眼鏡持参でない、レースがどうなっているかは正直分からない。しかしそういう細かいことは問題ではなく、砂浜を疾走してくる馬たちを眺めるのがとにかく楽しい。

コースは引き潮時の砂浜で行われるので全体が乾いているわけではなく、ちよとした水たまりのようなどころもある。場所によつて馬が伸びる伸びないということがありそうだが、そこは客も騎手もあまり気にしていないようだ。

せっかくのレイタウンなので一眼レフを持参し動画も回したのだが、撮っているだけで笑顔になるほど楽しい光景である。馬券ももちろん買ったが、当たったかどうか

よく覚えていないほど、レースそのものが楽しかった。

筆者自身がそうしたが、開催中は丘の有料エリアで過ごし、最後のレースか2レースだけ下の無料エリアで見るといいように思う。目線が違うとレースや馬の見え方も違うし、有料エリアで見るとより距離が近いぶん迫力もある。最終レースの頃になると陽が傾いてきて写真を撮るのは難しいのだが、腕のある人ならその時間帯のほうが雰囲気のある写真も撮れるだろう。

砂浜のほうで最終レースを見ると帰り道もしばらく砂浜を歩くことになるが、その雰囲気もよい。1日競馬を楽しんだ人が感想を言いながら歩くのを聞いているだけで、アイルランド競馬の歴史に溶け込めた気分になる。

筆者は車で行ったが、ダブリンの中心からレイタウン駅までは列車で1時間弱。競馬場までは徒歩15〜20分だが楽しく歩けるので苦痛にはならない。アイルランドは日本から直行便が無いのが難だが、ぜひ行っていただきたい競馬場だ。今年9月4日に開催される予定だ。